

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年12月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2895000012		
法人名	医療法人社団 正峰会		
事業所名	モンファミーユ北六甲		
所在地	神戸市北区谷上南町29番3号 (電話) 078-586-5450		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成20年10月28日	評価確定日	平成20年12月12日

## 【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成14年12月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	20 人	常勤 12人, 非常勤 8人, 常勤換算 19人	

## (2) 建物概要

建物構造	重量鉄骨	造り
	3階建ての	1~3階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	110,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	550 円
	夕食	550 円	おやつ	150 円
	または1日当たり		円	

## (4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	25 名	男性	4 名	女性	21 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	6 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	79 歳	最高	97 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	中西内科クリニック・真星病院・北都病院・こさか歯科
---------	---------------------------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、六甲山の住宅地域への入口にあり、北神急行(神戸電鉄)谷上駅から徒歩10分のところにある3階建ての建物である。ホーム周辺は、緑も多く環境的には大変良いところである。母体法人が病院であり、地域の医師とも24時間体制をとり、医療面において連携が図られている。管理者が8月末で交代したことにより、現在は新体制のもとケアの充実に努めているが、人材の確保も含めて課題があり、今後は新体制のもと一丸となって、利用者のケアの充実に期待したい。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の第三者評価の改善策について、新リーダーを中心に会議等で話しあったが、人材不足もあり取り組めていない。今後は新体制の管理者・リーダーを中心に、課題解決への取り組みに期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	管理者・リーダーを中心に会議等で話しあった。今後は自己評価項目を参考に、より良いケアの充実に目指すことを期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	今年度は、運営推進会議を2回実施したが、8月末に管理者が交代したことにより、現在は取り組めていない。早急に家族・地域との連携も含めて、運営推進会議を開催することが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	「MONKITAだより」の発行をとおして、家族との連携を図っている。また、ご意見箱を設置して家族からの意見の提供を依頼しているが、直接職員に対して話されることが多い。その都度、朝のミーティングで話し合っている。協力医療機関の医師とも連携を深め、オンコール体制をとって家族への報告・話し合いを行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	ホームの土地の持ち主が自治会長であり、地域のことについて色々と相談している。利用者は重度化している方が多いが、元気な方は、納涼祭りやふれあい喫茶等の地域の行事に参加している。ホームの前にあるマンションの子供が遊びに来たりしており、地域との交流に努めている。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人内4グループホーム共通の理念である、「利用者の尊厳を守る個別ケア、自己啓発、地域住民との積極的な交流」を玄関、フロア内に表示している。いつでも職員を含めて誰もが見ることができる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全ての職員が理念の内容を理解し、共有できるように名札の裏に理念を書き込んでいる。また、朝礼時に理念を唱和している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員が不足している問題、また重度化している利用者も多く、納涼祭りやふれあい喫茶等に参加したいが、顔を出す程度になっている。しかし、月1回地域の生花の先生に来ていただき、生花教室を開催している。また、ホーム前のマンションの子供達との交流も行っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の第三者評価をもとに月1回の全体会議、リーダー会議等で話し合っているが、具体的な改善に取り組むまでには至っていない。		職員の配置が代わり、引き継ぎも大変な状況であるが、今後も職員一丸となって、第三者評価の結果を踏まえ、サービスの質の向上を目指すことを期待したい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>今年度は運営推進会議を2回(4月4日・6月6日)行ったが、管理者が8月末で交代したため、それ以降は開催していない。今後、運営推進会議を11月末～12月に開催することを目指している。</p>		<p>運営推進会議を概ね2ヵ月に1回以上開催するためにも、参加者との連携の再構築が望まれる。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者が法人内の他市の事業所から異動していることもあり、市町との連携を深めるために、北区の福祉部会等にできるだけ参加している。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>「MONKITAだより」を中心に月1回家族等への報告を行っている。金銭管理は、全てホームで立て替えており、利用者個人ではお金を管理していない。また、職員の異動については、「MONKITAだより」の中で報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱を設置して家族からの意見の提供を依頼しているが、直接職員に対して話される方が多い。意見はその都度朝のミーティングで話し合っている。また、出された意見については、各自が業務日誌に記入して、職員間で漏れないように共有している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人全体で研修を行い、できる限り利用者に影響が出ないよう配慮している。また、研修内容についても職員が離職しない工夫とモチベーションを高めるための研修を行い、職員の異動による利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		<p>今回の職員の退職に伴う異動により、利用者への影響が出ているため、早期に職員体制を充実させ、安定し継続したサービスが提供できるような体制づくりが期待される。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>採用時や交流研修等法人内で行っている。できるだけ法人内外で研修をする機会を設けているが、職員配置の問題もあり、現時点では十分に研修体系は確立されていない。</p>		<p>今後は、研修や勉強会の内容を検討し、必要な知識・技術の習得ができるような外部で開催される研修に参加し、利用者のケアの充実に活かされることを期待したい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>北区にはグループホーム協議会がないので、できるだけ北区のあんしんすこやか連絡会に参加している。</p>		<p>管理者は他市から異動して間が無いが、積極的に地域の同業者と交流しようとする姿勢がみられるので、今後を期待したい。</p>
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者・家族には、事前にホームを訪問してもらい納得・了解いただいた後に利用いただいているが、ホームへ入居することに納得されないまま来られる方もいる。他の施設から移る利用者に対しては、職員が何度も訪問して理解いただいている。また、家族からの聞き取りを大切に、利用者が安心して生活できるよう職員は心掛けている。</p>		<p>1回の見学で利用を決める家族も多いため、利用者の気持ちにも配慮し、徐々に場の雰囲気に馴染まれて利用されることを期待したい。</p>
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の重度化に伴い、共に過ごし支えあう関係がだんだん難しくなっているが、できる限り利用者の思いを理解し、拒否をしないように話し合っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの思いや希望・意向の把握のために、入浴時、食事時等できる限り会話をする機会を設けている。意思の疎通の難しい方については、職員で話し合い、様子観察を行いながら接している。</p>		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員、家族、地域の医師と連携をとりながら、介護計画を作成している。また、本人の意見及び希望を聞くことにより、より良い介護計画の作成に努めている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎日の申し送りや関わりから気づいたことなどを介護計画に反映し、また状態に変化が見られた時は必要に応じて、介護計画の見直しにつなげているが、十分ではない。</p>		<p>定期的に介護計画の見直しを行うとともに、利用者や家族の意向を踏まえながら、現状に即した介護計画の見直しを行うことが望まれる。</p>
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族の来所時に話し合い、その都度、利用者の希望・家族の要望に応じた支援をしている。また、地域の医師と連携するなど、できるだけ柔軟な対応を行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>地域の医師との連携を図り、24時間体制の受診支援を行っている。また、家族とも連携をとりながら受診支援をしている。紹介状を記載してもらうなど、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期医療については、看護職が常勤ではなく週2回勤務であり、常時在籍していないため、対応に不安がある。また、協力病院の医師と連携を取っているが、方針を共有するには至っていない。</p>		<p>利用者や家族の安心を確保するためにも、引き続き重度化や終末期における対応方針について話し合いを行い、その方針を共有しておくことが望まれる。</p>
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ケアの中で特に言葉かけは、できるだけ利用者の尊厳を傷つけないように配慮している。また、個人情報に関しては、ホーム内の鍵のかかる書庫に保管している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>現状では、一人ひとりの希望に沿うことは難しい面もあるが、利用者の意見をできるだけ聞くなどして、利用者の気持ちを優先して暮らせるよう支援している。</p>		<p>利用者のペースを尊重することの大切さを、引き続き話し合っていくことを期待したい。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
	22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている		法人本部から半調理された真空パックが配送されてくるが、利用者の重度化に伴い半調理品に対して職員が工夫することが望まれる。また、利用者の声(好みのものや食べたいもの等)を聞くなどして、食事を楽しむことのできる工夫が望まれる。 嚥下困難な利用者に対しても、見守り等の配慮が望まれる。
	23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
	24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		
	25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している		
(4) 安心と安全を支える支援					
	26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>9月に地域の消防署と連携して避難訓練を行ったが、今のところ地域との連携が少ないため、地域の協力を得るまでには至っていない。</p>		<p>重度化している利用者が多いため、地域との連携は不可欠である。今後は、避難訓練をとおして、地域との連携・協力体制の構築に努めることが期待される。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士が作成した栄養バランスに配慮されているものを召し上がっている。また、水分摂取については、記録の中で確認し、不足する量については、好みのお茶・ジュース等で補うよう支援している。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各フロアの共有空間は、危険がないように整理整頓されている。古いミシンを配置したり、利用者が書いた絵・職員の写真・季節の花などを活けるなどして、季節感を取り入れ居心地よく過ごせるように工夫している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、各利用者が使い慣れた持ち物や孫との写真などを持ち込んでいる。全ての部屋のトイレの片側が通路に面しているので、危険・転倒がないように整理整頓している。</p>		

 は、重点項目。